

三平代表コラムNO. 19

東京の桜も例年より早い開花宣言を迎え、桜の季節がやってきました。

弊所からほど近い芝増上寺の境内に咲くソメイヨシノは、桜の名所としてお勧めのスポットです。大殿(本殿)、鐘楼堂、お茶室「貞恭庵」などの歴史的建物と一体として咲き誇る桜は何とも味わい深いものがあります。毎年3月下旬から4月中旬まで楽しませてくれますので、お近くにお寄りの際は是非訪れて頂き、天空に広がる桜を愛で、安らぎのひと時を過ごすのはいかがでしょうか。

春を感じる風物詩としては、桜とともに卒業式・入学式があります。自分の娘たちの卒業式・入学式に出席して違和感を覚えるのは、卒業式で涙を見せる子はほとんどいないということです。ひたすらハンカチで目を押さえているのは親ばかりで、式の数日前から「みっともないから泣くなら来ないで」と言われているのは、わが家だけではないようです。

入学式においても自分の時代の時の学生と違い、多くの子供の表情に浮かれた様子はあまりなく、子供たちの頭の中はすでに3年後、4年後のことを冷静に考え、先を見据えた準備をしている感じが感じとれます。具体的には、大学受験に向けての準備、資格取得に向けての準備、TOEIC・TOEFLのスコアアップ対策といったことがあります。

このように現代の高校・大学生の状況、意識の変化は、現代社会における雇用・社会保障制度の課題がいかに深刻であり、そのことが若者たちに将来への不安を生じさせている事なのではないかと考えさせられます。若者たちは言わば自己防衛本能から様々な準備をして将来に備えようとしています。

そのような準備にはすべてお金のかかることです。大学生は自分なりに考え、アルバイトをする子も少なくないでしょう。アルバイトを通じて働くとはどのようなことか、お金を稼ぐということの大変さを感じることは意味のあることです。しかしそれによって本格的に社会の一員となる自覚が芽生える、働く上でのルールが身につく、コミュニケーション能力の向上に役立つなど、学生時のアルバイトの経験や体験に対して過度な期待は本人も親も持つべきではありません。むしろ法的な知識の欠如、若さゆえの未熟な言動などからトラブルにつながることもあります。

入学後の4月から7月は、大学に入学して初めてアルバイトを経験する学生の労務トラブルが特に多い時期です。アルバイトであるにもかかわらず学業よりアルバイト中心の生活になってしまつては、本末転倒と言わざるを得ません。

また、不適正な労働環境でのアルバイトの経過は、企業に対する不信感にもつながりかねません。将来の貴重な人財が無用なトラブルに巻き込まれることなく、学業

との両立はもとより安心してアルバイトができる雇用環境が整備されている職場は、すべての働く人にとっても働きやすい職場であるといえるのではないのでしょうか。